

|    |      |   |    |    |    |    |    |       |
|----|------|---|----|----|----|----|----|-------|
| 天  | 6    | 9 | 12 | 15 | 18 | 21 | 24 | あす    |
| 京都 | 8:30 | ☀ | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | 10:10 |
| 宇治 | 9:30 | ☀ | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | 10:10 |
| 舞鶴 | 8:20 | ☀ | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | ☀  | 10:20 |

|        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 週間天気   | 京都    | 宇治    |
| 31日(木) | 8:20  | 8:00  |
| 1日(金)  | ☀     | ☀     |
| 7-1    | 7:30  | 7:30  |
| 2日(土)  | ☀     | ☀     |
| 11-1   | 11:20 | 11:20 |
| 3日(日)  | ☀     | ☀     |
| 12-4   | 12:40 | 12:40 |
| 4日(月)  | ☀     | ☀     |

# 鹿背山城の名 全国に

木津川市を拠点とする市民団体「木津の文化財と緑を守る会」が1978年の発足から40周年を迎えた。市内を流れる木津川が水運の要衝だったことを示す遺跡が住宅地に開発されてしまったことを教訓に、地域の歴史を学び、文化財の意義を発信してきた。2001年から整備を続ける中世の山城跡「鹿背山城跡」は早ければ来年、国史跡に指定される見通しで、長年の奮闘が結実する。

## 木津川「守る会」発足40年

淀川水系の木津川には、奈良時代、「泉津」という大河川港(当時は泉川と呼ばれた)が開かれ、旧木津町は大坂湾と平城京のある大和を結ぶ物流拠点だった。現会長の岩井照芳さん(70)は78年5月、港の役所跡である「上津遺跡」で見つかった遺物



2011年に製作した鹿背山城の模型。府立山城郷土資料館で見ることができ、いずれも木津川市で

## 整備続け歴史、意義を発信

とはいえ、ほぼ無名の山城跡。転機は2000年、会恒例の歴史探訪で山城研究の定番とされる奈良県の城跡を見学したことで訪れた。「鹿背山城の方が素晴らしい。我々が世に出そう」。翌01年から月に2回、荒れ山に分け入り、見学コースの整備を始めた。



会の出発点である「上津遺跡」に、旧木津町が建立した石碑。(左から)会長の岩井照芳さん、事務局長の後藤啓治さん、会計の平瀬義治さん。後藤さんが手にするのは会報「泉」の第2号

物(展示会へ出かけ、調査した町教委(当時)から「重要な遺跡」と聞く。同時に宅地になるとも教えられ、来場者名簿をもつた。歴史が分かっていないと文化財は守られない(岩井さん)と、四つの研究部会で町の歴史を学び始めた。この年の秋、泉津の南に広がる丘陵地に山城跡が発見される。主郭と階段状に続く曲輪などが東西350m、南北300mに広がる鹿背山城は、15世紀後半には奈良・興福寺の出城だったと考えられ、大和との関係史においても重要な意味を持つ。

現在の会員は約80人。岐阜や兵庫など府外にも広がる。年10万円ほどの会費(1人1500円)と、木津川市と府からの補助金40万円余りをやりくりし、40周年記念誌として会報「泉」の第2号(全64頁)を発行した。会報は79年に創刊号を出したとき、資金難で途絶えていた。今回は、岩井さん(090・5129・8908)。他に年4回の文化講座なども開催している。